

沖縄市オープンデータ利活用推進業務委託に係る
公募型プロポーザル審査基準

1 審査基準の位置付け

この審査基準は、沖縄市が、沖縄市オープンデータ利活用推進業務委託を実施する受注者を選定するにあたり、プロポーザル評価委員会（以下「評価委員会」という。）において、最優秀提案者等を選定するための方法や審査基準等を定めるものである。

2 契約候補者の選定方法

(1) 契約候補者の選定方法

契約候補者の募集及び選定の方法は、競争性の担保及び透明性・公平性の確保に配慮した上で、公募型プロポーザル方式とする。

契約候補者の選定に当たっては、企画提案内容及び事業遂行能力等を総合的に評価し、最優秀提案者を選定する。

(2) 審査の進め方

審査は、第1次審査として参加資格を満たす者の中から、評価基準に基づき、調書や実績表を評価し、第2次審査として、第1次審査で選定した事業者の中から、評価基準に基づき、企画提案及びヒアリング等の内容を評価する。(図表1参照)

(3) 審査体制

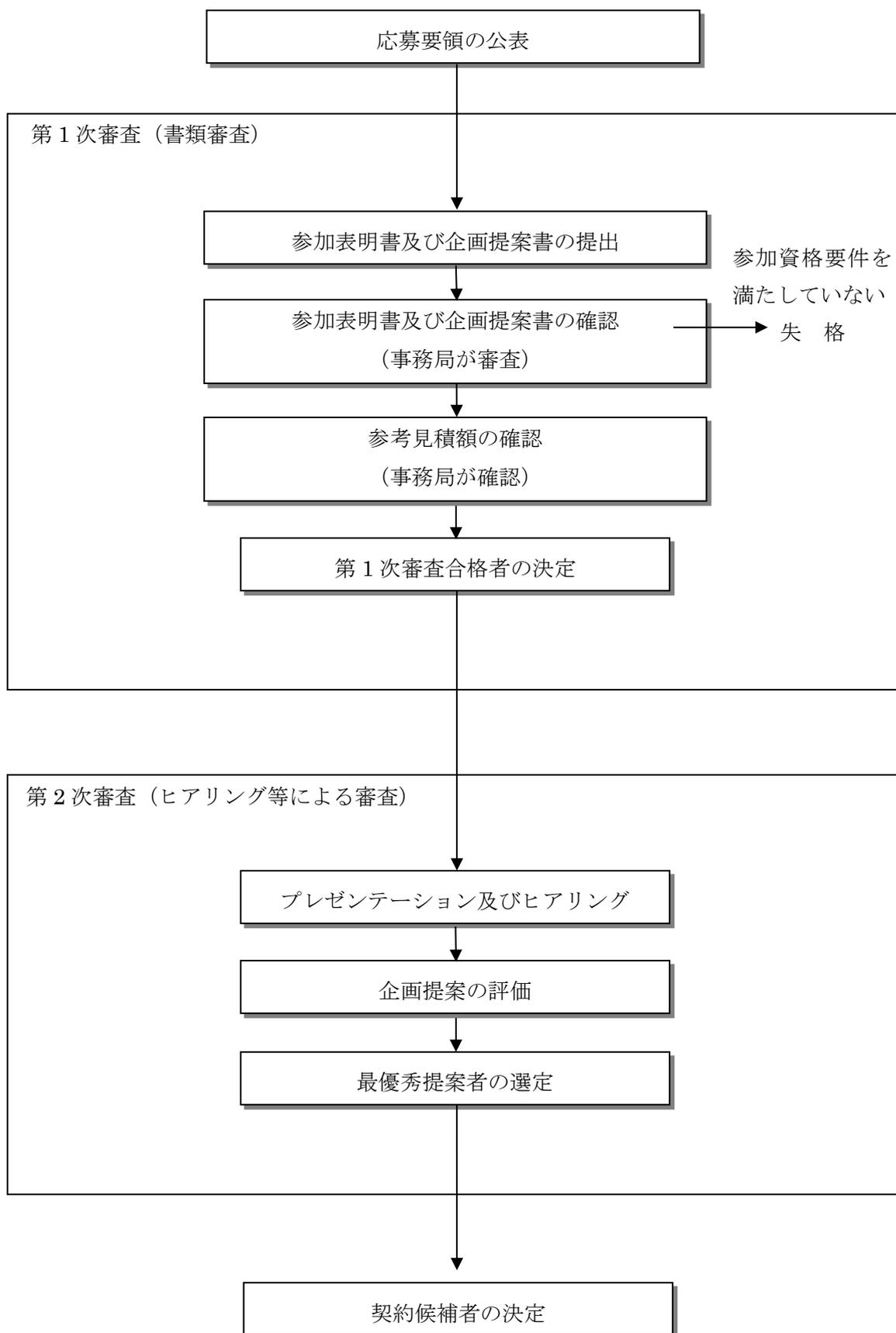
評価委員会は、企画提案審査等における審査基準の詳細に係る検討並びに業務実施体制回答書、企画提案書及びヒアリング等の審査を行う。また、市は評価委員会の審査結果を踏まえ、契約候補者を決定する。

市が設置した評価委員会は、以下の委員により構成される。なお、参加者においては本プロポーザルに関する事項について、委員との接触は一切禁止する。

1. 委員 沖縄市企画部 DX 戦略室長
2. 委員 沖縄市企画部政策企画課長
3. 委員 沖縄市企画部行政改革推進課長
4. 委員 沖縄市企画部 DX 戦略室情報システム課長

委員長は沖縄市企画部 DX 戦略室長をもって充てる。

図表 1 最優秀提案者選定までの流れ



一次審査

30点満点

沖縄市オープンデータ利活用推進業務委託に係る公募型プロポーザル審査基準

評価対象 (大項目)	評価項目 (中項目)	評価項目 (小項目)	評価するにあたっての視点
企業能力	企業信頼度	経営規模の妥当性	信頼に足りる流動比率である。(流動資産/流動負債)
			信頼に足る自己資本比率である。(自己資本/総資本)
			ISO認証等、業務を委託するにあたって信頼できる資格を有している。
			会社設立から信頼に足る年数(10年)を経過している。
			事業を確実に実施できる従業員数(6名)を有している。
	業務実績	当該業務を遂行するために必要な知識・経験の妥当性	同種業務の実績がある/類似業務の実績がある。
	実施体制	適切な業務を提供できる実施体制	現場代理人は業務指示及び進捗管理ができる役職となっている。
			現場代理人および担当者の人数が計6名以上で配置を予定している。
			現場代理人および担当者の人数が計4~5名で配置を予定している。
			現場代理人および担当者の人数が3名以下で配置を予定している。
	地理的条件	市内に本社、営業所又は支社があるか	・市内企業(本社)である。 またはコンソーシアムで代表が市内企業(本社)である。
			・市内企業(支社)である。 またはコンソーシアムで代表が市内企業(支社)である。
			・市内企業(営業所)である。 またはコンソーシアムで代表が市内企業(営業所)である。 もしくはコンソーシアムで市内企業(本社)が含まれている。
			・コンソーシアムで市内企業(支社)が含まれている。
・コンソーシアムで市内企業(営業所)が含まれている。			
・上記以外。			

評価対象 (大項目)	評価項目 (中項目)	評価項目 (小項目)	評価するにあたっての視点
担当者能力	現場代理人	同種・類似業務の実績	・同種業務の実績が3件以上ある。
			・同種業務の実績が2件ある。
			・同種業務の実績が1件ある。
	主任担当者	同種・類似業務の実績	・同種・類似業務の実績が5件以上ある。
			・同種・類似業務の実績が4件ある。
			・同種・類似業務の実績が3件ある。
			・同種・類似業務の実績が2件ある。
			・同種・類似業務の実績が1件ある。

沖縄市オープンデータ利活用推進業務委託に係る公募型プロポーザル審査基準

評価対象 (大項目)	評価項目 (中項目)	評価項目 (小項目)	評価するにあたっての視点
業務の実施方針	業務理解度	業務理解の深さについて	<p>本業務の目的を理解し、業務への取り組みや考え等の提案、説明ができるか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の取組状況を理解し、本業務の目的の説明ができる。 ・本市のオープンデータ利活用推進における方向性を理解し、説明ができる。
	課題理解度	課題理解の正確さについて	<p>市の課題を分析し、課題への取り組みや考え等の提案、説明ができるか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市の課題について、これまでの取組みや公開情報を用いて説明ができる。 ・課題の分析に根拠があり、正確性がある。
	対応性	課題への対応について	<p>課題理解度で説明した内容について、適切な解決策が示されているか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案する解決策に妥当性がある。 ・解決策の信ぴょう性や根拠が示されている。
	効果性	解決策の効果性について	<p>提案内容が本市の目的や課題解決のために効果的であり、期待される成果が明確か。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定性効果、定量効果など根拠をもって効果が示されている。
アイデアソンの開催に関する考え方	効果性	アイデアソン開催の効果性について	<p>提案内容が本市の目的や課題解決のために効果的であり、期待される成果が明確か。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催したことによる成果や効果が示されている。 ・開催したことによる成果や効果を測る基準が示されている。
	計画性	アイデアソン開催の実施計画やプロジェクト管理について	<p>提案内容がプロジェクトのマイルストーンや管理手法等を明確に示しており、期間内での成果が見込めるか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各工程ごとの期間設定があり、工程管理が示されている。 ・各工程の始期と終期は、計画を実行するために現実的な期間が設定がされている。
	手法の独創性	アイデアソン開催の手法について	<p>提案内容は独創的であり、既存の解決策やアプローチと比較して魅力があるか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市が求めているダッシュボードを活用した課題解決型ワークショップが示されており、内容が魅力的である。 ・提案内容は独創的であり、既存(本市パブリック・コメント等)の課題解決の手法と比較して魅力的である。
	実現可能性	手法の実現可能性について	<p>提案内容が技術的・経済的に実現可能であり、本市の課題解決に貢献できるか。</p> <p>評価視点例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントのコストを明確にし、経済的に実現可能であることが示されている。 ・イベントに必要な技術、資源、人材等を確保していることが示されている。

評価対象 (大項目)	評価項目 (中項目)	評価項目 (小項目)	評価するにあたっての視点
アイデアソン開催 周知・広報活動・ア ンケートの実施に 関する考え方	効果性	周知・広報活動、アンケートの効果について	提案内容が本市の目的や課題解決のために効果的であり、期待される成果が明確か。 評価視点例) ・イベントの参加人数の目標値を設定し、参加促進にどのような効果があるか示されている。 ・イベントの評価や改善に有効な分析を行う事ができるアンケート内容の設計について示されている。
	計画性	周知・広報活動、アンケートの実施計画やプロジェクト管理について	提案内容がプロジェクトのマイルストーンや管理手法等を明確に示しており、期間内での成果が見込めるか。 評価視点例) ・各工程ごとの期間設定があり、工程管理が示されている。 ・各工程の始期と終期は、計画を実行するために現実的な期間が設定がされている。 ・アンケート作成について、本市担当が余裕をもってフォームの作成ができる期間を考慮している。
	手法の独創性	周知・広報活動、アンケート考案の取組みについて	提案内容は独創的であり、既存の解決策やアプローチと比較して魅力があるか。 評価視点例) ・広報で使用するコンテンツ、デジタルメディア等が従来の手法と異なる提案を示しており、魅力的である。 ・アンケートの考え方について本市の要望を踏まえつつ、専門的知見を取り入れており、魅力的である。
	実現可能性	周知・広報活動、アンケート集計・回答の実現可能性について	提案内容が技術的・経済的に実現可能であり、本市の課題解決に貢献できるか。 評価視点例) ・活動にかかるコストを明確にし、経済的に実現可能であることが示されている。 ・活動に必要な技術、資源、人材等を確保していることが示されている。 ・アンケート回答率100%に向けた取組みが示されている。
プレゼンテーション 評価	取組姿勢	プレゼンテーションへの取り組みについて	説明内容に説得力があり、業務への取組姿勢が高く、熱意が感じられるか。 評価視点例) ・プレゼンテーション資料を読むだけでなく、口頭で説明できている。 ・質疑応答にしっかりと回答できている。
自由提案	自由提案	その他課題解決に関する自由提案について	本業務を遂行にするにあたり、その他有効な手法の提案があるか。 評価視点例) ・予算の範囲内で、本業務を達成できる追加提案がある。